

[主訴]

月経痛

[随伴症状]

偏頭痛、イライラ、月経周期が早い、やや不眠、肩凝り

[経過]

ここ数年、月経痛が悪化。月経周期が短く、月経前より月経後期の方が体調が悪い。

[問診]

食欲はあまりない。夜は1～2回中途覚醒、喉が乾き水分摂取量が多い。花粉症あり。喉の異常なし。ややのぼせる。四肢倦怠感なし。足やや冷える。手の冷えはなし。便秘気味。下痢、軟便はなし。目のつかれなし。

[切診]

足冷え。手の冷えはない。

曲泉やや圧痛あり。

大腿内側圧痛あり。

鼠径部やや圧痛あり。

腹部の冷えはなし。

[腹診]

胸部熱感あり。  
鼠径部やや圧痛あり。  
左脇下硬あり。

[脈診]

やや力あり。  
左関上の浮が目立つ。

[証の決定]

肝虚熱証

[治療]

曲泉、陰谷の補法。  
腎兪、肝兪の補法。

[備考]

週 1~2 回の治療

3 診後の月経痛はやや軽減した程度。

8 診後はさらに月経痛が軽減。

14 診で月経周期が正常に近づく。

20 診で月経痛がかなり軽減された。

3 診までは鍼の効果をあまり感じなかったが 8 診あたりからのぼせ感や足の冷えの改善があり 14 診で何年

も続いた月経周期異常が正常に近づいたことで鍼の効果を確信し 20 診で月経痛もかなり軽減された。その後月に 2~3 回の頻度で来院しているが月経痛も月経周期も落ち着いている。

問診から身体の上部に熱があることがわかる。これは腎か肝の虚熱が発生している目安となる。目の症状はないが、月経、イライラ、中途覚醒、大腿内側の圧痛、鼠径部の圧痛から腎より肝の変動が大きいと判断した。